

最新のボツリヌストキシン

「Xeomin(ゼオミン)」待望の日本初上陸



INTRODUCING
 **XEOMIN**®/MC
incobotulinumtoxinA



こんな人におすすめ！

従来のボツリヌストキシンやアラガン社のボトックスでも抗体が出来てしまうことがあります。(回数・頻度などが影響されます)

抗体が出来てしまうと、その種類のボトックス(A型)を注射しても効果が出ないので、別の種類のボトックスが必要になります(B型)。

この点、ゼオミン(A型)は従来製品よりも抗体が出来にくくなったと言われていています。従来よりも不要なタンパク質が減り、高純度になったことが理由です。

従って、ボトックス治療を継続的に受けたい人には、ゼオミンがおすすめとなります。(効果はボトックスと同じです)

ボツリヌス毒素とは？

「ゼオミン=A型ボツリヌス菌毒素製剤」

ボツリヌス菌毒素製剤には複数の製剤があります。

先ず大きくはA型ボツリヌス菌毒素製剤とB型ボツリヌス菌毒素製剤に分かれます。

A型には・・・Botox(アメリカ製)・Dysport(イギリス製)・Neuronox(韓国製)・Medytox(韓国製)

B型には・・・ナーブロック(日本製)

がありますが、A型の効果期限がおおよそ4ヶ月であるのに対し、B型は1ヶ月とかなり短く、また効き始めまでの時間がかかることも短所であることから、シワ消し等の美容にはA型が圧倒的に多く用いられます。

しかし、A型であればどれでもよいという訳ではありません。A型の中での違いはというと、先ず真っ先に優劣がつく条件としては「複合蛋白の少なさ」が挙げられます。

各製剤に含まれる複合蛋白は繰り返し使用することで「中和抗体」を産生しかねないという問題があります。実際、海外では過去に中和抗体産生の報告が散見されました。この中和抗体というのは、簡単にいうと使用回数を多く重ねるうちに効きが悪くなり、効果期間が短くなるということが懸念されます。

しかし、日本人は欧米人に比べ人種的な違いにより、表情筋が豊かではないために、製剤単位使用量が驚くほど少なくて済むことから、欧米人に比べ中和抗体が産生され難いとも言われています。しかしながら、いずれにしても『中和抗体が少ない製剤がより良い』ということは事実なのです。

それが、このゼオミンです！